＝新連載＝　　誌上レッスン

木下保声楽教室

ま　え　が　き

会報編集責任者の御要望により，今後適時に「声楽誌上レッスン」と題して小生の拙文をのせることになりました。

「わたしたちの音楽」の在り方は何の規制も制約もなく，自由に楽しい音楽を一般に広めようとするものであるのですから，余り堅苦しい考え方や表わし方は適当でないと思います。随って声楽の余りにも専門家的な用語や説明の仕方は極力さけねばならないと自分に言いきかせている次第であります。

さて然し，一体全体音楽することや上手になるための声楽上の種々の技術面を文字で表して見たり，単純な専門記号を使って説明して見ても，其の中で必ず誤解を生む要素を含んでいるから恐ろしいのです。

言うまでもなく音楽自体は音そのものなりです。楽譜は音楽を作るための約束ごとに過ぎませんし，況や文字や言葉は良い音楽を作るための一助に過ぎんとまで言ってよいのかも知れません。

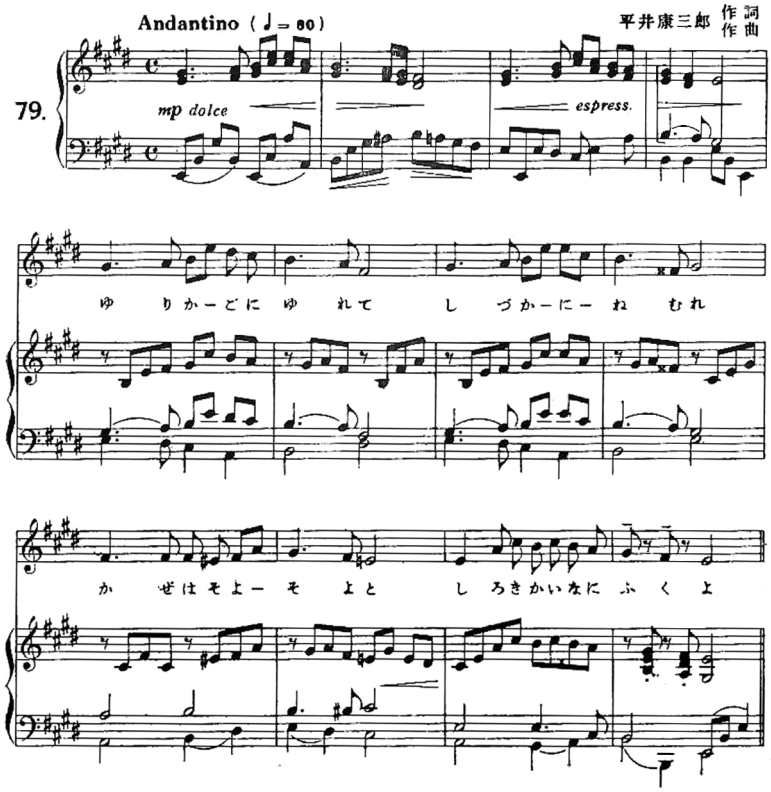
なるほど音を作り出すための最後の判断は，其の人その人の其の時点での音感覚により善悪正邪を心に決めてケースバイケースで取捨選択するのであります。

然し個々の音感覚は多分に生理的感情的要素を含んで居るのでありますから，其の音感覚を向上さすためには，より良い正しい音楽を聴き，より高い時限の音感覚に到達するように努力すると共に，音を理知的に分析して良い悪いの判断の確信を得るようにする習慣をつけることも重要なことには間違いないと思います。

でありますから今後此の稿で述べます意義は，音楽特に声楽を文字や記号を通して説明することにより，音に対する判断力を得るための一手段と言う一面的効用だけを信じて書きつづけるに過ぎません。

最後に上達するための決め手は，ただ良い方法を反復練習することです。

ゆ　り　か　ご



第１回＜ゆりかご＞

いわゆる子守唄風な歌なのですから，ゆったりと暖く優しさをたゝえて歌わなければなりません。

我が国古来のお母さんや子守達は，大抵の場合子供をおんぶしてゆるやかなリズムにのって「ねんねんよ―おころりよ」と歌ったり，また子供が寝入りかけると同じ早さで，同じピッチのハンミングでメロディーをうたって居る姿を思い浮べます。そのときの気持や姿は，本当に優しく幸せを抱いて居るようで，或る意味でこんなに美しい姿が此の世にあったのかと思うことがあるでしょう。

それは真の姿で素朴で心にしみるほどなのですが，この美しさを芸術音楽として歌い上げるのには相当の技術を用いなければならないのです。

先ず一つ一つの母音が暖く優しく感じられるような発声法に終始

43年1月12日におこなわれた第2回やまと言葉を美しくの折の木下保

しなければなりません。強烈な声や鋭い母音は極力さけねばならないことはおわかりでしょう。若しウッカリ不快な声が一音でも出たら，眠りかけている子供はビックリして目をさますことになります。ですから細い神経を用いながら而もゆったりとした母音が続かなければ子守唄の意味をなしません。と言うことは凡ゆる母音を柔らかく丸味をおびた音にして歌うことが第一義的なことになるのです。

話が蛇足になって申し訳けありませんが，此の曲は高等学校や中学校の教材にまで取り入れられている程の名曲でありますが，しばしば指定のメトロノームの早さより早く歌ってしまい，其の結果冷たい無味乾燥の「ゆりかご」を聴かされることがあって残念に思うことがあります。これからはそんなみじめな目には会い度くないものだと願っています。

母音の問題でまだ心残りなことがあります。此の歌詞には「うくすつぬふむゆる」が他の列の母音に較べて圧倒的に多数に出て来ますが，日本語の純粋なウ列にならないで歌われているのも残念です。東北弁やフランス語のウのようにウの中に多分にイが入り込んでしまっているのです。ドイツ語はuとüと二つありますが，日本語では決してüではないのです。さりとてドイツ語のウとはまた違い，日本独特のニュアンスのあるウなのです。

テレビタレントでへっぽこ歌手の歌うウや，NHKの「ひょっこりひょうたん島」の中の主題歌で子供の歌っている「どこへユクー……」などは最もいけない例として思い出して見て下さい。

母音が凡て完全に柔らかに丸く優しく歌えるようになったからと言っても未だ決して終ったことにはなりません。

残された重大な問題があるのです。それは子音なのです。母音と子音は常に不即不離の間柄であり乍ら，音楽教育界は勿論のこと声楽専門家の間にさえその重要性さえ知られて居ないことは，片輪の人間が歩いていると言って過言ではないでしょうか。

極端な言い方をすれば，子音にも音程があるし，母音には関係なく子音だけの強弱をつけないと本当の表情が出ない場合が沢山あるのです。

然しおおざっぱに言って子音は母音に正比例して発音されるものと思ってよいのでしょう。

このことはローマ字にして母音と子音を別々に練習することが発音上達法の近道です。

例えば最初に歌い出す「ゆ」について述べてみますとyuのuは柔らかに発音されますからyも柔らかな子音でなければなりません。言うなれば音符は原則として母音の長さの表示ですから，第一拍の前に，即ち前の拍の間にすでに柔らかく「y＝イ」と子音を発音してしまい母音u＝ウに柔らかに緩漫（ゆっくり）に移入して歌唱音のユを作り上げるのです。次にRiが来ます。日本語のイも文字には表わせない独特のニュアンスのある音ですが，大体英語を例外としては各国語のイと大差はありません。余談ですが英語iはエに近くなります。以下の一字一字を文字で述べれば膨大な紙面になり，色々の特例も説明しなければなりません。このようにして唱歌の音は作られて行くものなのです。

重ねて言うことになりますが，要するに音楽は音を通してのみ表現出来るのであって，実際には各人の反復練習に待つより仕方のないことです。休止符やスタッカート一つの扱いにしても無限のケースバイケースがあるのですからむづかしいけれども，出来たときの喜び楽しみはまた格別です。

ゆ　り　か　ご

平井康三郎 作詞

1　ゆりかごに　ゆれて
　しずかに　ねむれ
　風は　そよそよと
　白き腕に　吹くよ

2　ゆりかごに　ゆれて
　しずかに　ねむれ
　風は　夢をさまし
　黒き瞳に　吹くよ